

12. 計画の達成状況の評価

12.1. 数値目標

本計画の達成状況の評価するため、基本的な方針毎に評価指標および目標値を定める。
 なお、目標値は計画期間の最終年度である令和3年度を目標年度とする

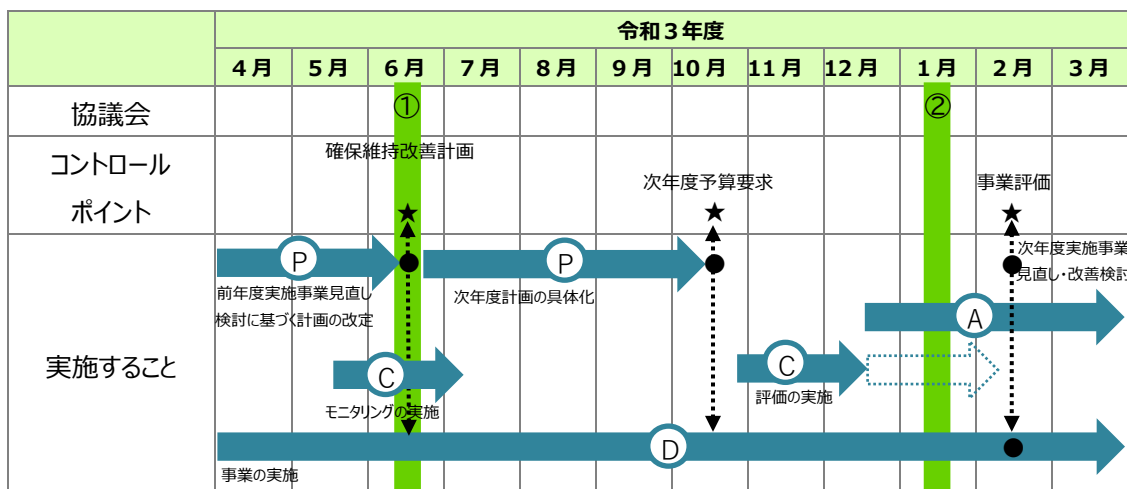
表 12-1 計画の達成状況の評価指標および設定根拠

基本的な方針		当初 H27	実績 R2	目標値 R3	備考	
評価指標	指標の設定根拠					
まちづくりや教育、福祉政策と連携した公共交通網の維持・構築						
各地域の「拠点」へのバス路線の乗り入れ率	公共交通による「軸」とまちの「拠点」の連絡状況を計る	100%	100%	100%	現状維持を目指す	
バス路線および鉄道の圏域内※人口カバー率	岡垣町の公共交通網の形成状況を計る	97% (H22)	98% (H27)	100%	新たな移動サービスによる全域カバーを目指す ※バス路線から300m、鉄道駅から500m	
交通結節点での連絡を図るバス路線での20分以内での連絡率	乗継利便性を計るため、接続を図るバス路線について順序・方面を考慮した乗換え時間を把握する	97%	100%	100%	全便の乗換え利便性向上を目指す	
15歳以上通学者のバス利用率	通学利用率の増加を計るため、通学者のバス利用率を評価する	16% (H22)	-	17%	通学者のバスへの転換を目指す	
運行形態及び運行水準の適正化						
便あたりの輸送人数	路線の運行効率性を評価するため、車種別に便あたりの輸送人数の目標値を設定する	マイクロバス	6.2人/便	5.4人/便 (R1)	6.3人/便	人口減少化においても、利用者数の増加・運行効率の向上を目指す
		ジャンボタクシー	3.4人/便	4.8人/便 (R1)		
新たな公共交通利用者の確保に向けた利用促進						
住民説明会の開催数	利用促進策の住民への周知状況を評価するため、住民意見交換会の開催数を指標化する	0自治区/年	4自治区/年	3自治区/年		
海老津駅での乗り換え時刻を記載した公共交通総合時刻表の作成	利用促進策の実施状況を計るため、公共交通総合時刻表の作成・配布を行うことを目標とする	-	作成・配布している	作成・配布している	早期に作成・配布し、路線・ダイヤ更新時に随時修正する	

12.2. PDCA サイクルによる計画の継続的な改善

目標を達成するためには、計画的に事業を進めることが重要である。そのために、継続的に取組みを実施していく（Do）と同時に、その取組み結果を詳細に把握・評価し（Check）、課題が見つければさらに見直しを検討・調整し（Action）、新たな取組みの計画を立案する（Plan）という「PDCA」のサイクルに基づいて、達成状況の評価を進めていく。このサイクルの継続的实施により、取組み状況やその効果を施策実施の都度把握・検証し、その次のステップへと持続可能な公共交通網の形成に寄与させることができる。

表 12-2 PDCA の実施サイクル



12.3. 計画の推進体制

本計画は、改正地域公共交通活性化再生法及び交通政策基本法の趣旨に鑑み、計画の策定主体である本町を中心に、岡垣町公共交通協議会の構成員である交通事業者、地域住民、行政が一体となり、それぞれが主体性を発揮しながら、推進を図る。

事業主体	役割
岡垣町	関係者との密接な連絡調整 新規事業の企画・立案
交通事業者	旅客運送サービスの質の向上 利用状況等のデータの収集・分析及び岡垣町との共有 積極的な利用促進事業の実施
地域住民等	公共交通機関の積極的な利用 情報発信などの積極的な啓発活動の実施 地域等における要望等の取りまとめ
県	広域的な見地からの助言
国	先進事例等の情報提供 行政及び交通事業者の人材育成